

新年の挨拶



所長 迫田秋英

新年あけましておめでとう
 ございます。

職員の皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのことと思います。

昨年は、阪神大震災に始まりオウム教事件、いじめ自殺問題など、何かと暗い出来事が多かった年ではなかったでしょうか。

さて、私たちの職場屋久島森林環境保全センターは、地域の皆様方のご理解とご協力のもと、昨年の三月一日に発足しました。スタートして一

〇ヶ月になりましたが、私自身何しろ新しい分野の業務であり、手探りの状態で遂行してきたのではないかと思われます。この一〇ヶ月を振り返ってみますと、お客様の案内、夏山対策、各種森林教室、シンポジウムの開催、モニタリングプロットの設定、八箇所の谷止工、山腹工事、吊橋の掛替え、縄文杉プラットホールの建設等々順調に事業が進行できました。これもひとえ



に皆様方のご協力の賜と深く感謝申し上げます。

年度始めにもお話ししましたが、今年も職員の和を大切にしながら、健康で災害のない明るい職場作りに努力して参る所存でございます。

保全センター設置の目的である屋久島の森林環境保全のために、今年も全員で力を合わせて頑張りますよう。よろしくお願いいたします。

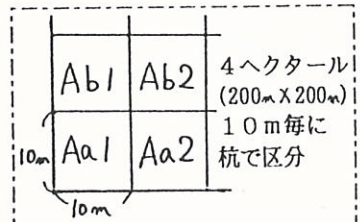
プロット調査 全所員で実行中

保全センターでは、森林生態の移り変わり等を観察するためのモニタリングプロット(大プロット)を設定中です。

現在、区域設定のための測量と調査を併行して実施しています。

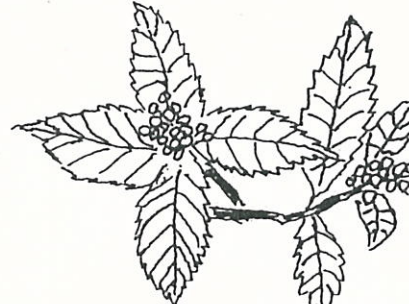
調査は、四ヘクタールの区域内に一〇m×一〇mのプロットを四〇〇個作る測量から始まり、それぞれのプロット毎に樹種、胸高周囲を記録し樹間配置図を作成することが主な作業内容です。

普段なじみのない樹種や、葉の変形した樹種等が見られ調査員はそのたびに図



設定したプロットの資料やフィールドは、学術研究機関にも利用していただくことにしています。

屋久島の植物



センリヨウ (センリヨウ科)

センリヨウとマンリヨウを生花にすると金たまると縁起をかつぎ、正月にはよく床の間に活けます。山地の樹下に生える常緑の小低木で高さは七〇〜九〇センチ、幹は緑色で節が高い。葉は対生で薄いなめし皮質で縁にはするどい鋸歯がある。長さは一〇〜一四センチ、幅は四〜五センチ、枝先に短い穂を出して花をつける。花は一個の雄しべと雌しべがあり、果実は肉質で丸く、朱色の房実が美しい。

※千両と万両活けて床の間に金が貯るといふにもあらず

昨年を振り返って

保全センターが設置されて初めての正月を迎え、これまでの主な出来事を洋上アルプスに掲載した記事で振り返ってみたいと思います。

- ☆屋久島森林環境保全センター開所 (三月一日、来賓・職員約百二十名が参加して開所式を行う)
- ☆紀元杉木製歩道完成 (延長六〇mの木製歩道が完成、四月五日現地にて完成記念式典を実施)
- ☆大寺専門官長女誕生 (四月二五日、当センターの大寺専門官に待望の女児「優希ちゃん」誕生)

☆ふるさと森林教室実施 (五月二七日、白谷雲水峽で上屋久町内小学五年生を対象に実施)

☆九州林政協議会開催 (六月六日、島内ホテルで九州・沖縄の林業関係機関の代表者五〇名が出席し開催)

☆縄文杉で森林教室 (七月二六日、職員手作りのハンドブックで県内小中・高校生一〇二名を対象に実施)

☆北桑田高校生に森林教室 (八月二〇・二二日の両日保全センター会議室と黒味岳にて実施)

☆屋久島山岳部利用対策協議会 (ゴールデンウィーク・夏休み期間中マナー啓発指導を実施)

☆世界遺産地域管理計画骨子(案)を公表 (十月五日、骨子案に対する地元住民参加の「地元意見を聴く会」を開催)

※十一月管理計画公表
 ☆屋久島の森シンポジウム開催 (十一月二日、保全センター設置記念シンポジウムを、約六百名の参加により開催)

このほか、屋久島の植物・業務の進行状況等掲載してきました。これからもますます紙面の充実を図っていききたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。